

2. 障害の内容と医療器具の説明

(1)障害の内容について

Sは生後間もなく小腸が絡まり壊死してしまったため、広範囲に渡って小腸を切除されました。小腸は栄養を吸収する器官ですので、現在、消化吸収能力が十分ではありません(この状態を「短腸症候群」といいます)。

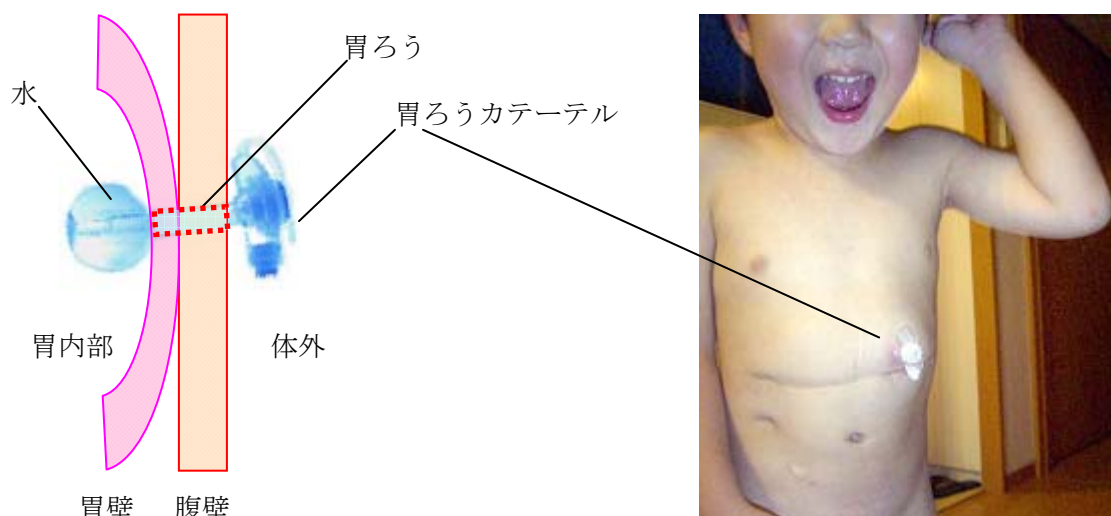
(2)医療器具について

消化吸収能力が低い事により不足する栄養を補うため、栄養吸収能力が高まる夜間就寝中に栄養剤を与えています。しかし睡眠中は口から飲むことができませんので、ピアスの穴のように胃内部と体外をつなぐ「トンネル」を造り、栄養剤を直接胃の中に投与しています。このトンネルを「胃ろう」といいます。

しかし同じトンネルである耳のピアスでも、使わずに放置すれば身体の治療力により閉じてしまいます。胃ろうという胃内と体外をつなぐトンネルも放置すれば塞がってしまいますので、短く小さな「胃ろうカテーテル(管)」を通したままにしています。これが腹部の医療器具です。栄養剤は夜間のみ、この胃ろうカテーテルを介して投与します。

(3)医療器具の構造と装着位置について

次に腹部の医療器具(胃ろうカテーテル)の構造と装着部位についてご説明致します。胃ろうカテーテルは胃内で風船状の小さな袋に水を注入して膨らまし、引っ張っても抜けないような構造になっています。体表には栄養剤を投与するための接続口があります。胃ろうカテーテルは左腹部に装着されています。



3. 登園中の管理と制限等について

(1)胃ろう

登園中にガーゼや消毒、投薬等の処置はありません。またプール等を含め運動制限はありません。体外よりも体内の方が圧力が高く、通常胃ろうから胃に水や異物が入ることはありません。万一何か異物が入っても、もともと胃は食道と口を通して外界につながっており、胃ろうから入ろうが口から入ろうが結局胃に到達することに変わりありません。口からプールの水等を飲み込んでも健康を害さない事を考えると、胃ろうによる生活制限はないことをご理解頂けると幸いです。

(2)食事

消化吸収能力が低いため、現在食事には制限があります(脂肪分 15g 以下/日、食物繊維 7g 以下/日)。しかしお弁当と水筒を持参することにより、問題はないと考えております。

何れの制限も成長と共に緩和され、幼稚園を卒業する頃には胃ろうを含め殆ど不要とされる見通しです。

(3)トイレ

腸が短いと便の回数が多くなり、また便意を感じてから出るまでの時間が短くなる傾向になります。現在のところ便は1日1～2回、大抵は朝起床後の1回に治まっておりますが、その日の体調により頻回になる時もあるかもしれません。特に食事をすると胃腸の働きが活発になり、「押し出し」のように出ることがあります。大小共に自分でトイレに行くことができますが、園での食事中や他の行動の最中にも急に席を立ってトイレに向かうことがあるかもしれません。そして便意を感じてから出るまではやはり短いです。ご配慮頂きたいと存じます。

4. 緊急時の対処方法について

「胃ろうは口と同じ」と考えれば、胃ろうカテーテルが抜けたとしても、生命に係わるような重大な事態にはなりません。胃はもともと口と食道を通じ、外界に通じています。胃ろうカテーテルが引き抜かれても、大事に至る事はありません。胃ろうも口と同じ外界に通じる道だからです。そして実際これまでに何らかのトラブルが起こったこともありません。

しかしながら想定し得るトラブルとその対処法を以下に考えました。何れにせよ何らかの異常が見られた場合、連絡を頂ければ、速やかに迎えに伺います。

(1)引き抜き

しかしながら急激な力で引き抜かれますと、胃ろうが傷つき、多少の出血があるかもしれません。また穴は胃に繋がっているため、徐々に胃酸が染みだしてきます。親族到着まで、タオル等で圧迫しておいてください。引き抜かれた胃ろうカテーテルは廃棄せずに私共にお渡し下さい。

(2)圧迫

胃ろう造設のため、胃が腹壁（体表：お腹）近くに固定されています。そのため腹部を圧迫したり衝撃を与えると胃が刺激され、嘔気・嘔吐を起こす可能性があると考えられます。胃ろうカテーテル周辺に異常が見られない場合は、しばらく横にさせるなどして休ませてください。

(3)破損

急な引き抜きや衝撃により胃ろうカテーテルが破損した場合、破損個所によっては胃内の風船状の袋に満たされている水が抜け、カテーテルが抜けやすくなっているかもしれません。処置は「引き抜き」に準じて下さい。

以上です。何れの場合にしろ、ご不明点や異常があればご連絡下さい。速やかに迎えに伺います。

平成 19 年 11 月 2 日